

10月の園だより

令和7年10月1日
目黒区立中町保育園 園長

忍者に扮した4歳児クラスの子が、手足を前後に動かして這うように一本橋を進みます。バランスを崩しそうになり、力を入れて踏ん張った時「すごく難しいんだよな…」と呟きました。一人前の忍者になるための修行は、自分の持てる力と向き合う時間でもあるようです。“難しい”と感じた橋を渡りきった時の表情は、渡る前とはだいぶ違って自信に溢っていましたように感じられました。

園庭やホールから流れてくる曲、子どもたちの掛け声、ひときわ盛り上がる歓声は、運動会が近いことを物語っています。運動会に向けて、各クラスがねらいを持って運動遊びに取り組んでいます。親子で初めて参加する2歳児クラスのねらいは【日頃の遊びを運動会の中でも楽しむ】であるのに対し【保育士や友達と運動遊びを楽しむ（3歳児クラス）】【友達と一緒に楽しみながら、一人ひとりが力を発揮する（4歳児クラス）】【友達と認め合い、協力しながら目標に向かい、達成感を味わう（5歳児クラス）】等と、年齢発達に応じてねらいも広がっていきます。それぞれのクラスに目を向ければ、乗り物ごっこで盛り上がり、手先を使って忍者の必須アイテム作りに励み、汗だくになって踊り、跳んでいる毎日です。子どもたちは遊びながらイメージを膨らませ、考え、学び、人とつながりを持つことに喜びを感じています。行事はそれ単体ではなく、日常と結びついているからこそ、行事前も行事後もどちらも保育の視点を定めながら見ていくことで、毎日を楽しく豊かな遊びで満たしたいと思っています。【日頃の遊びを運動会の中でも楽しむ】という2歳児クラスのねらいこそ、全ての原点ではないかと感じます。

行事予定

運動会（2～5歳児クラス）

*〇・1歳児クラスは自由参加です。

芋掘り遠足（4・5歳児クラス）

幼児お楽しみ会（3・4・5歳児クラス）

中旬 身体計測 避難訓練

『いざという時』
知識のインプット

保育園では、毎月避難訓練を行っています。防災の日にちなみ、今年度は9月3日（水）に緊急事態宣言が発令された想定で引き渡し訓練を行いました。子どもたちは非常時にどの様に行動すれば良いか、どんな物が必要かを動画で観ることで『命を守る』行動の大切さを知りました。加えて、非常時には普段使っている物も使えなくなり、様々な代用品で過ごすため、園の備蓄品の一部を見て知ってもらいました。照明を消してランタンを点けてみると「こういうの 知ってる」「キャンプみたい」等と声があがります。栄養士から非常食のアルファ化米は水を入れると出来上がることを聞くと「え、お水で？」と驚いています。よく目にするツナ缶やミルク缶、水等は「おうちにも あるよ」と言いながら、保存期間の長いものが準備されていることを知りました。その日は、職員も一日を通して災害を意識して過ごすことが出来ました。いつやって来るかわからない災害時も慌てずに行動するために、今後も『命を守る』訓練を積み重ねていきます。



【10月10日は目の愛護デー】

赤ちゃんの目はぼんやりとしか見えていませんが、満6歳頃には成人と同じ視力1.0程度まで見えるようになります。見る力は、目から情報を取り入れて脳での処理を繰り返すことで成長します。見る力を育てる上で、戸外遊びはとても良いと言われています。目に良いことをお子様と一緒に考えてみる機会にしてください。

◎ こんな姿はありませんか

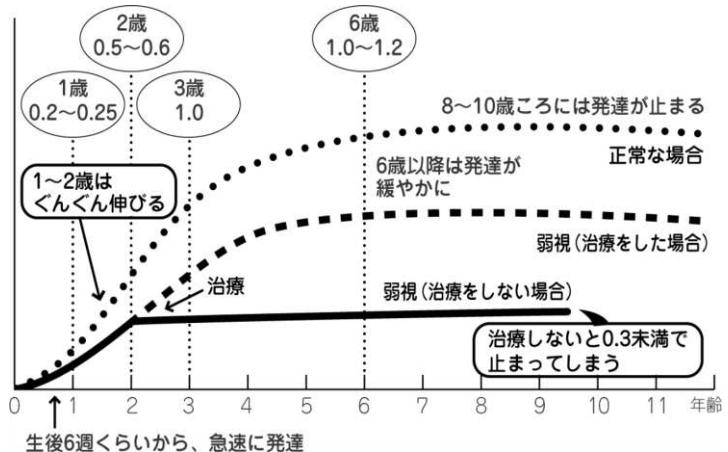
テレビや絵本に近づいて観る／目を細めて観る

戸外でまぶしがる／見る時に首を曲げたり、頭を傾けたりする

よく転んだり、物にぶつかったりする 等

◎ 前髪は目にかかるいませんか

長すぎる前髪は、見えにくさだけでなく、目を傷つけたりすることがあります。



のぼれた！ たかいぞ♪ わあ～ いいながめ

もも組（0歳児）

保育士がマットの山を登ってみせると、歩行が出来る子も一緒に登ります。慣れてくると頂上で立ち上がり、膝を曲げ伸ばししてバランスを取り「だんぶ（ジャンプ）だんぶ」と言います。“一緒にやろう”とアピールし、揺れを楽しんでいる様子です。歩行の確立前の子も、音の鳴る玩具で呼びかけると手足の力を使って頂上まで登り、保育士と目が合うと嬉しそうに微笑みます。いつもとは景色が違って見えるのか、頂上では周りの様子をゆっくりと見ていました。肌に触れるマットの感触や傾斜の感覚を楽しみながら、嬉しそうな笑顔で繰り返し楽しんでいます。



たんぽぽ組(1歳児)

長い斜面板と50cmの巧技台を組み合わせた滑り台が大好きで、腕の力で体を引き上げ、足をかけてよじ登れるようになりました。うつ伏せや座位等、体勢を変えながら思い思いの滑り方で楽しんでいます。保育士が「かんかん～」と腕を上下させて踏切の真似をすると「がたん ごとん」と電車になりきったり「おいで」「いこう」と子ども同士で声を掛け合う姿も見られます。友達と一緒に遊ぶことで楽しさが増すようです。保育士や友達とイメージを共有したり、やり取りを楽しんだりしながら、高さを変えた設定、太鼓橋等の少し難しいことにも“やってみよう”という気持ちで臨み、体を動かすことを楽しんでいます。

